

クルマ情報 TOPICS

1月
vol. 87



日本カー・オブ・ザ・イヤーはレヴォーグ

航続距離を伸ばすとともにスタイリッシュに生まれ変わったFCVミライ

2020年代のベンチマークと評価

2020-2021日本カー・オブ・ザ・イヤーが発表され、その頂点に選ばれたのがスバルのレヴォーグです。新技術による「類い希な操縦性と快適性を高次元で両立」することで「2020年代のベンチマークにふさわしい仕上がり」と評価されました。また、高度運転支援システム「アイサイトX」装着車で317万円から購入できるコストパフォーマンスの高さも受賞理由のひとつです。



2位以下を圧倒する得点でカー・オブ・ザ・イヤーに選出されたスバル・レヴォーグ。

インポートカー部門ではプジョーの208／e-208が受賞を果たしました。「クラスを超えた上質な乗り心地」と、「フランス車らしい内外装の高いデザイン性」が賞賛されるとともにEVモデルのe-208が400万円を割り込む価格に設定されている点も高い評価を受けました。



Bセグメントのコンパクトボディながら高い剛性感が評価されたプジョー208。

一方、軽自動車部門では日産のルークス、三菱のeKクロススペース／eKスペースがそれぞれ受賞しました。「実用性の高いスーパーハ

イトワゴンながら、(中略)安定感の高い走行性能」と先進安全運転支援システム「プロパイロット／マイパイロット」の採用で「軽自動車の水準を引き上げた」と評価されました。



上質なイトワゴンに仕上がったルークス(左)とeKクロススペース(右)。

この他、デザイン部門ではマツダ・MX-30、テクノロジー部門ではアウディのe-tron Sportback、パフォーマンス部門ではBMW・ALPINA B3がそれぞれ受賞しました。

燃料電池は更に身近なクルマに

2020年12月9日に発売されたのがトヨタの燃料電池車(FCV)のミライです。水素搭載量を4.6kgから5.6kgへと増やすとともに発電効率を高める技術を導入することで航続距離は従来比30%増を実現しました。また、プラットフォームの変更などにより駆動方式は従来のFFからFRへと変更されています。優遇税制と補助金を利用すると最大で141万円余りの優遇を受けることができます。



全長4,975mm×全幅1,885mm×全高1,470mmのボディサイズは前モデルと比べ、大型化しました。全高を低くしたワイド&ローでエクステリアはよりスタイリッシュに生まれ変わりました。

東京海上日動のおクルマ購入サポート制度をご利用ください。

自動車販売店へご訪問する前にご相談ください。